

敦賀発電所の近況について

敦賀発電所の近況について、以下のとおりお知らせします。

1. 発電所の状況について（2021年9月3日現在）

1 号 機 沸騰水型	廃止措置中（2017年4月19日～） ・第4回定期事業者検査中（2021年4月1日～11月下旬予定） ・タービン補機冷却系熱交換器他解体工事中（2021年2月22日～）
2 号 機 加圧水型 (116万kW)	第18回定期検査中（2011年8月29日～未定）

（ ）内は定格電気出力

<新規規制基準への適合性審査に係る申請状況>

	申 請	申請日	補正日	許認可日
2 号 機	原子炉設置変更許可	2015.11.5	—	—
	工事計画認可	—	—	—
	保安規定変更認可	2015.11.5	—	—

2. 故障等の状況について（2021年8月2日～9月3日）

（1）法律に基づく報告事象

なし

（2）安全協定に基づく異常時報告事象

なし

（3）保全品質情報等

①敦賀発電所2号機 Bディーゼル発電機燃料弁冷却水冷却器フランジ部からの海水漏れについて

第18回定期検査中の敦賀発電所2号機において、8月18日11時9分頃、前日に海水のにじみが確認されたBディーゼル発電機燃料弁※冷却水冷却器のフランジ部を点検するため当該部を清掃したところ、海水の漏れ（糸状）が発生しました。このため、当該冷却器を隔離し11時39分に漏れは停止しました。

当該フランジ部を開放して点検した結果、海水を止水するためのOリングが本来の仕様（線径（断面の太さ）：6.0mm）より0.3mm細い製品が使用されており、必要

な面圧が確保されていないことを確認しました。なお、当該冷却器の他の部品に異常は認められませんでした。

Ｏリングの仕様が異なっていた原因を調査したところ、点検を行った会社が点検対象の発電機名称をよく確認せず、Ａ号機用のＯリングを誤って発注し、使用していたことが判明しました。

対策として、発注や納入時等にＯリングの仕様を明確に確認できるよう、発電機毎に異なる部品番号を用いることとしました。

当該冷却器については、本来の仕様のＯリングに交換した上で漏れが無いことを確認し、８月２７日に復旧しました。

本事象による周辺環境への影響はありません。

※燃料弁：燃料をシリンダに噴射するための部品であり、過熱防止のための内部を冷却水が循環する構造となっている。

(別紙１参照)

②敦賀発電所２号機 Ａディーゼル発電機シリンダ注油器（No. 16）動作不良について

第１８回定期検査中の敦賀発電所２号機において、９月２日１６時２２分頃、運転員がＡディーゼル発電機の機関予備潤滑運転※^１（頻度：１回／２週間）の準備作業として、シリンダ注油器※^２（以下、「当該注油器」という。）を操作し、シリンダ（全１８気筒）への注油を終えた際、インジェクタの鋼球が下限位置にあるところ、No. 16シリンダのみ中間位置に留まっており、注油が継続している可能性があることを確認しました。

このため、機関予備潤滑運転の準備作業を中断し、当該注油器に潤滑油を供給する弁を閉止した結果、鋼球はインジェクタ内の下限位置まで下降しました。

本事象による周辺環境への影響はありません。

今後、当該注油器を点検のため取り外し、予備品と交換します。

※１ 機関予備潤滑運転：ディーゼル発電機の機関各部に潤滑油を供給し、油膜を行き渡らせる操作。

※２ シリンダ注油器：シリンダ油サービスタンクのシリンダ油（潤滑油）をピストン摺動面に供給するための装置。１ピストンあたり４カ所から行われている。
インジェクタは内部の鋼球の上下動によりシリンダ油の注油状態を確認するもの。ディーゼル機関が停止中はシリンダ油が供給されず、鋼球はインジェクタ下限位置にあり、機関運転中や機関予備潤滑運転はシリンダ油の流れを受け、インジェクタ下限位置から上昇する。

(別紙２参照)

３．敦賀発電所３，４号機 準備工事について（２０２１年９月３日現在）

現在、原子炉建屋背後斜面の緑化管理等の建設予定地維持管理、及びコンクリート製造・供給プラントの設備維持管理等を継続して行っています。

４．その他

（１）当社協力会社社員の新型コロナウイルス感染について

８月４日に、敦賀発電所に勤務する当社協力会社社員１名が新型コロナウイルスに感染していることを確認しました。当社では、これまで新型コロナウイルスの感染予防・拡大防止対策を実施しており、発電所の運営に影響はありません。

(８月５日お知らせ済み)

（２）当社協力会社社員の新型コロナウイルス感染について

８月１４日に、敦賀総合研修センターの清掃業務に従事する当社協力会社社員１名が新型コロナウイルスに感染していることを確認しました。当社では、これまで新型コロナウイルスの感染予防・拡大防止対策を実施しており、発電所および敦賀総合研修センターの運営に影響はありません。

(８月１５日お知らせ済み)

(3) 【当社コメント】敦賀発電所2号機の審査の取扱いに関する原子力規制委員会の方針について

8/18の原子力規制委員会において、敦賀発電所2号機の新規制基準適合性審査の取扱いに関する今後の方針として、ボーリング柱状図の調査データに基づく当社の評価結果の信頼性が確保されるために必要な業務プロセスの構築が確認されるまでの間は、審査会合を実施しないことが示されました。

原子力規制委員会で示された方針に基づき、業務プロセスの構築を確認していただくための準備を早急に進め、早期に審査会合を実施していただけるよう、全力で取り組んでまいります。

(8月18日お知らせ済み)

(4) 敦賀発電所 原子力事業者防災業務計画の修正について

原子力災害対策特別措置法に基づき、関係自治体との協議を踏まえて原子力事業者防災業務計画を修正し、8月27日に内閣総理大臣及び原子力規制委員会に届け出ました。

(8月27日お知らせ済み)

(5) げんでんふれあいギャラリー催し物のご案内について

【開館時間：10時～16時30分】

＜個人・グループでの芸術活動、趣味の発表の場としてご利用頂いております＞

①「五人の会」写真展

今年設立30年を迎えた「五人の会」(代表:吉田^{よしだ} 俊雄^{としお} 様)の5名の皆様による写真展です。若狭地方を中心とした風景や伝統行事、人物などをテーマとした作品を31点展示中です。

(8月31日～9月5日)

②敦賀市小中学校児童生徒理科作品展示

夏休みに敦賀市内の児童・生徒が、創意工夫を凝らし取り組んだ理科学研究・工作の中から、各校の優秀作品50点を展示予定です。主催：敦賀市小中学校教育研究会理科部会

(9月14日～9月19日)

③敦賀市短歌人会 色紙展

結成21年目になる敦賀市短歌人会(代表:竹内^{たけうち} 展子^{のぶこ} 様)の皆様による短歌色紙展です。会員各々の想いを込めた作品を、25点展示予定です。

(9月21日～9月26日)

④能面への誘い 新作能面個展 大同^{だいたいどう} 長久^{たけひさ}

趣味で長年能面打ちをされている、大同^{だいたいどう} 長久^{たけひさ} 様による作品展です。郷里若狭能倉座の古面等を参考に制作された新作を中心に、能面作品を27点展示予定です。

(9月28日～10月3日)

⑤動物たちにぬくもりを！動物あいごパネル展

動物たちとの共生を推進する会（代表：^{ふじた ゆきお}藤田 幸雄 様）によるパネル展です。日本の動物愛護の現状と課題（アニマルセラピー等の動物福祉社会の実現、気候変動に伴う生物の生命危機意識高揚等）についてのパネルを約200点展示予定です。

（10月5日～10月10日）

新型コロナウイルスの感染状況により、展示が中止になることもありますので、ご了承ください。最新の情報は、弊社ホームページをご覧ください。

(<http://www.japc.co.jp/tsuruga/fureai/event/fureai.html>)

以 上

敦賀発電所 2 号機 B ディーゼル発電機 燃料弁冷却水冷却器フランジ部からの海水漏れについて

第 18 回定期検査中の敦賀発電所 2 号機において、8 月 18 日 11 時 9 分頃、前日に海水のにじみが確認された B ディーゼル発電機燃料弁※冷却水冷却器のフランジ部を点検するため当該部を清掃したところ、海水の漏れ（糸状）が発生しました。このため、当該冷却器を隔離し 11 時 39 分に漏れは停止しました。

当該フランジ部を開放して点検した結果、海水を止水するための O リングが本来の仕様（線経（断面の太さ）：6.0mm）よりが 0.3mm 細い製品が使用されており、必要な面圧が確保されていないことを確認しました。なお、当該冷却器の他の部品に異常は認められませんでした。

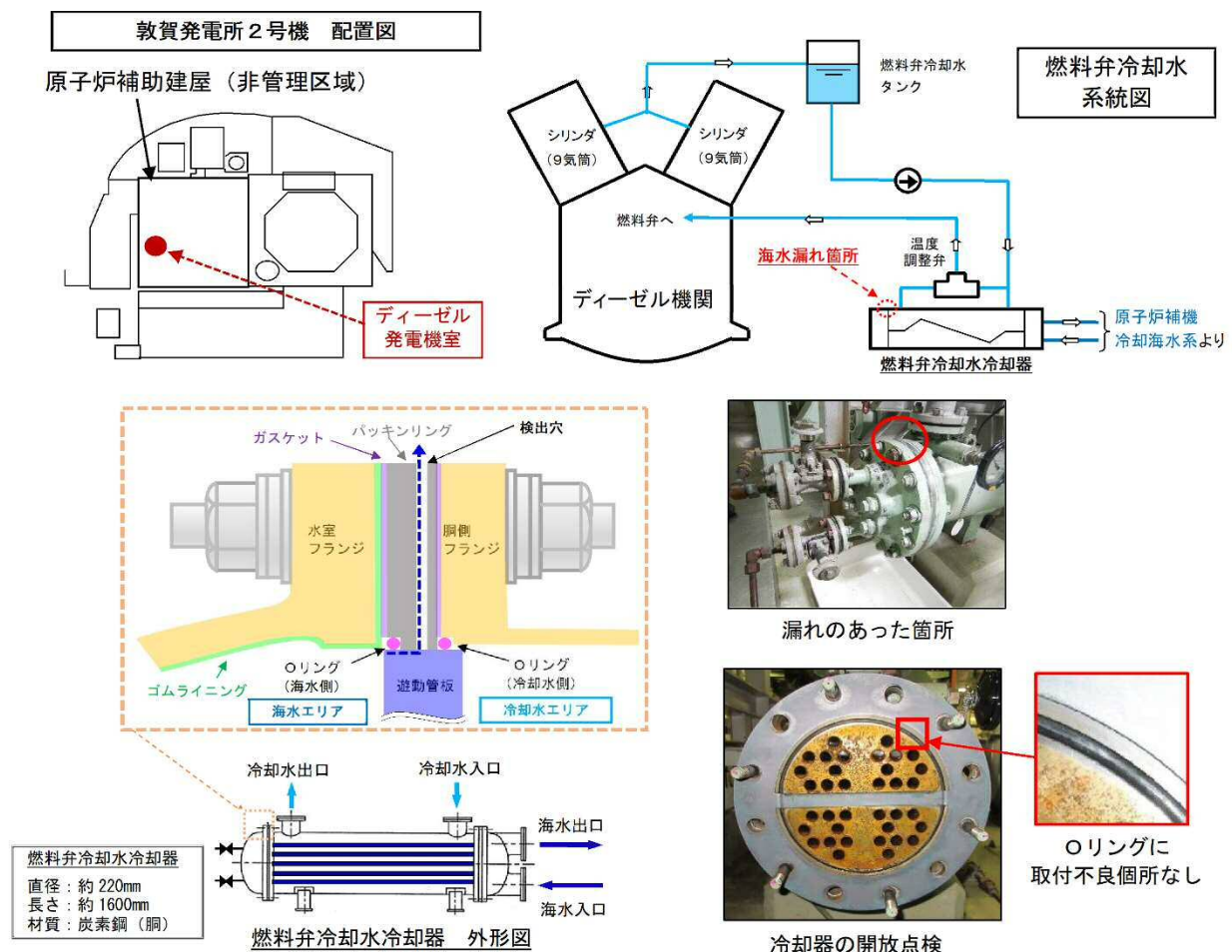
O リングの仕様が異なっていた原因を調査したところ、点検を行った会社が点検対象の発電機名称をよく確認せず、A 号機用の O リングを誤って発注し、使用していたことが判明しました。

対策として、発注や納入時等に O リングの仕様を明確に確認できるよう、発電機毎に異なる部品番号を用いることとしました。

当該冷却器については、本来の仕様の O リングに交換した上で漏れが無いことを確認し、8 月 27 日に復旧しました。

本事象による周辺環境への影響はありません。

※燃料弁：燃料をシリンダに噴射するための部品であり、過熱防止のための内部を冷却水が循環する構造となっている。



以上

本事象は、法律に基づく報告事象や安全協定の
異常時報告事象に該当するものではありません。

別紙 2

敦賀発電所 2 号機 A ディーゼル発電機 シリンダ注油器 (No. 16) 動作不良について

第 18 回定期検査中の敦賀発電所 2 号機において、9 月 2 日 16 時 22 分頃、運転員が A ディーゼル発電機の機関予備潤滑運転※¹（頻度：1 回／2 週間）の準備作業として、シリンダ注油器※²（以下、「当該注油器」という。）を操作し、シリンダ（全 18 気筒）への注油を終えた際、インジケータの鋼球が下限位置にあるところ、No. 16 シリンダのみ中間位置に留まっており、注油が継続している可能性があることを確認しました。

このため、機関予備潤滑運転の準備作業を中断し、当該注油器に潤滑油を供給する弁を閉止した結果、鋼球はインジケータ内の下限位置まで下降しました。

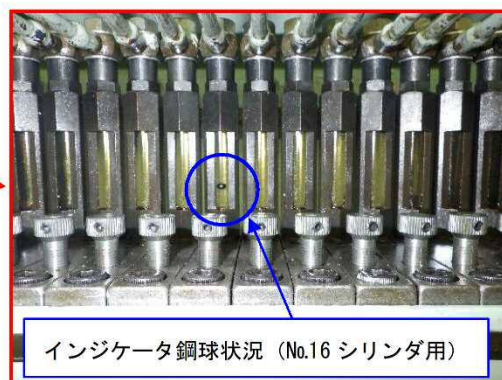
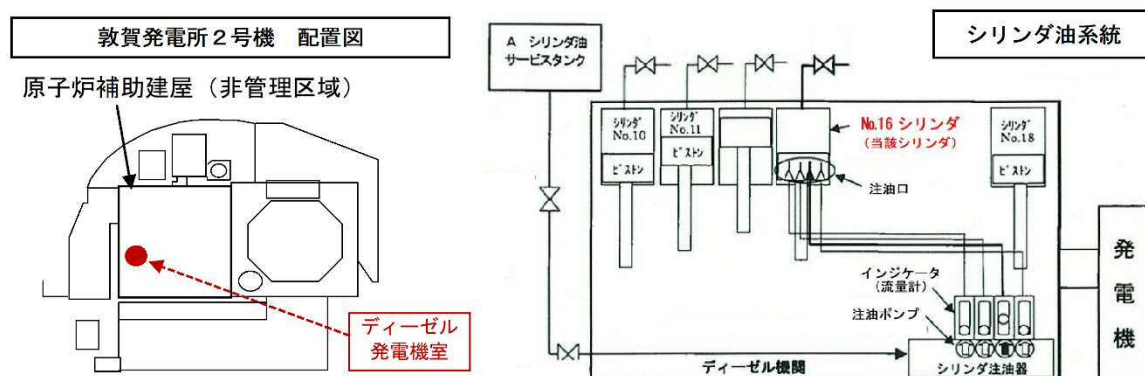
本事象による周辺環境への影響はありません。

今後、当該注油器を点検のため取り外し、予備品と交換します。

※ 1 機関予備潤滑運転 : ディーゼル発電機の機関各部に潤滑油を供給し、油膜を行き渡らせる操作。

※ 2 シリンダ注油器 : シリンダ油サービスタンクのシリンダ油（潤滑油）をピストン摺動面に供給するための装置。1 ピストンあたり 4 カ所から行われている。

インジケータは内部の鋼球の上下動によりシリンダ油の注油状態を確認するもの。ディーゼル機関が停止中はシリンダ油が供給されず、鋼球はインジケータ下限位置にあり、機関運転中や機関予備潤滑運転はシリンダ油の流れを受け、インジケータ下限位置から上昇する。



以上